

# OBON 2015

個人の遺留品をご遺族の元へ



誰でも一人一人に家族がいます

## 我々の最後の年

多くのアメリカ人が遺留品を日本へ返還したいと望んでいることを知るたび、この事業を始めて本当に良かったと実感しています。

寄せ書き日の丸を日本へ返還したいと考えている方から、我々は連日のように連絡を頂きます。

特に、元帰還兵の方から直接連絡を頂いた時の感激は、なかなか言葉では言い表せません（何人かは養護施設から連絡して下さいました）。

## Table of Contents

**Page 2:** カードウエル准将

**Page 3:** 新しいビデオ

**Page 4:** 父の旗

**Page 5:** 父の旗

**Page 6:** 調査の一例

**Page 7:** 寄付のお願い・連絡先

## 准将からの日章旗返還

「この旗は私ではなく、兵士の故郷か遺族の元にあるべきです」

ジェームズ・F・コールドウェル准将は、大叔父ジェイ・チェース氏（第二次大戦中は海軍士官）から、引き継いだ寄せ書き日の丸を保有していました。

遺族にとって、これらの遺品がとても重要であることをコールドウェル准将は知り、本来の持ち主の元へ帰るよう日章旗をハワイの日本領事館に託しました。



コールドウェル准将は仰いました。「この旗は私ではなく、兵士の故郷や遺族の元にあるべきです。この旗は、日本、故郷、遺族にとってこそ重要な意味を持ちます。」

大叔父様がどのような経緯で日章旗を入手したのかは不明ですが、「大叔父は尊敬すべき人でした。第二次大戦は彼にとっても辛い経験でしたが、彼は、この旗が遺族の元に戻ることを望んでいるに違いありません。」

重枝大使は、コールドウェル准将の心のこもった申し出に深く感謝しました。「日米はかつて敵同士として戦っていましたが、現在は信頼で結ばれた同盟国となっています。准将が日章旗を我々に託されたことにより、両国間はより深く結ばれます。」

## OBON2015 の新しいビデオ

OBON2015 は新しいビデオを作製し、YouTube に投稿しました。



ビデオは、現在の日本人とアメリカ人の親密な関係から始まります。



そして、過去、二国間に起こった残忍で破壊的な戦争へと続きます。



約 70 年が経過した現在でも尚、両国は大変な労力をかけて、兵士の遺品を捜し続けています。どの遺品にも故人の魂が宿っていると考える遺族にとって、この搜索活動は重要な意味を持ちます。



YouTube でビデオをご覧頂くには、下記のリンクをクリックするか、"OBON 2015 Do Unto Others" というキーワードを検索してください。 [www.youtube.com/watch?v=07oABxxseVA](http://www.youtube.com/watch?v=07oABxxseVA)

## 初めて知る父の温もり

### 息子の元へ帰った日章旗

(下) 二人の幼い子供と妊娠中の妻(写真右手)をおいて、出征する会川登美男氏の写真。当時の習慣によって、手作りの寄せ書き日の丸を肩から掛けています。



(下) 1944年1月3日、海軍の基地で再開した家族の写真。この写真では、会川登美男氏が生まれたばかりの一ヶ月の赤ちゃんを腕に抱えています(写真では見えづらいですが、父の腕に抱えられ白い帽子を被っています)



その年の暮れ、登美男氏は戦地へ赴き、7月8日のサイパン戦を最後に消息が分かっていません。

数十年後のある日、米国でダンス講師をしていた日本人女性が、友人からこの日章旗を入手しました。彼女は、旗の重要性を知っていたので、OBON2015に連絡を下さりました。我々は、すぐさま調査を始めました。



訳注：下記リンクもあわせてご覧下さい。

産経新聞：<http://www.obon2015.com/id-2/20131121.html>

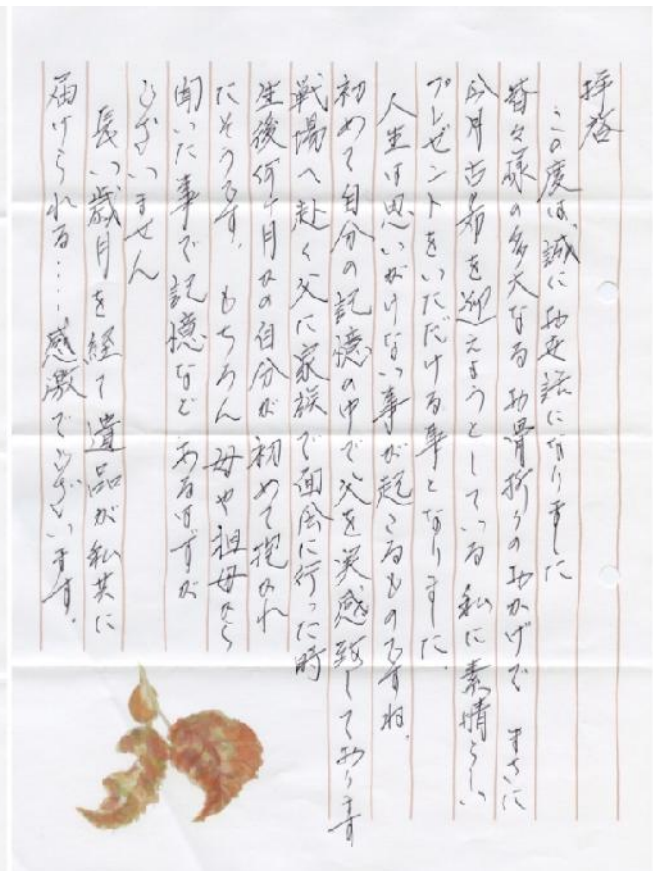
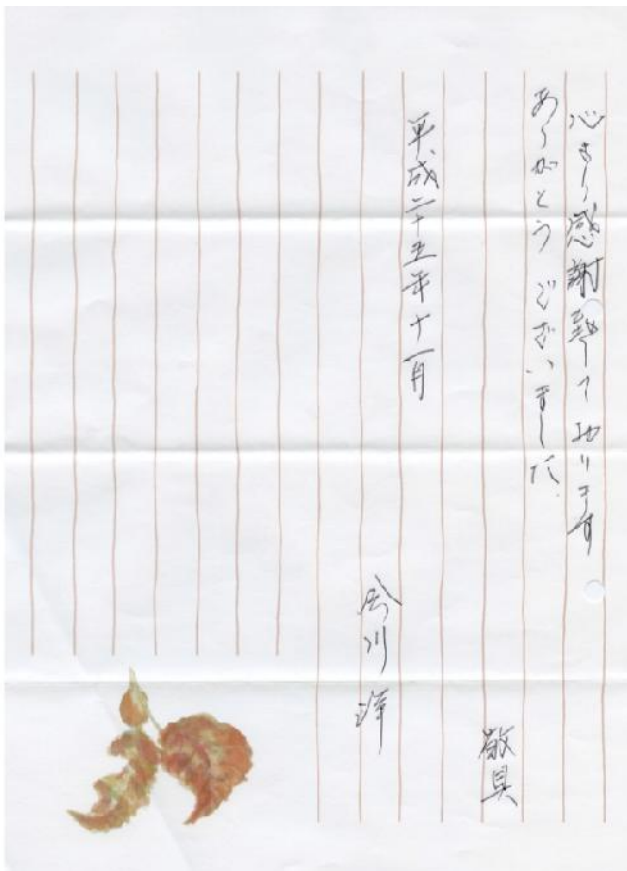
ブリッジ USA(ダンス講師、安藤みちよ氏へのインタビュー)：<http://www.obon2015.com/id-2/2014-2--usa.html>

## 初めて知る父の温もり



OBON2015 の調査員が日章旗に書かれた文字を解説し、兵士の名前が判読しました。69年の時を経て、埼玉県護国神社で、旗は家族と再会することが出来ました。

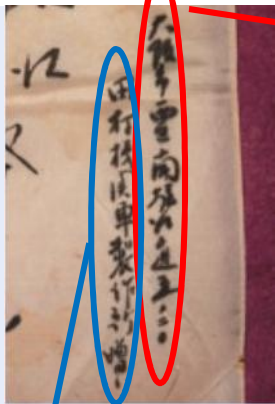
69年前の写真で、父親の腕に納まっていた生後1ヶ月の赤ちゃんは、ご子息の会川洋氏だと判明しました。父が肌身離さず持っていた遺品は、今、洋氏の元にお返しすることが出来ました。日章旗の返還後、会川洋氏から、以下のようなお手紙を頂きました。



## 調査の一例



日章旗の持ち主を探す際は、どんな小さな事柄も見逃さないよう最新の注意をもって調べます。  
左の日章旗には住所と鉄道に関連するような文字が書かれていたので、持ち主の調査は順調に行えると最初は思われました。  
ところが、実際に調査を始めてみると、様々な難問に突き当たりました。



この住所ははっきりと読み取れました。

大阪市南堀江通り 5-20。

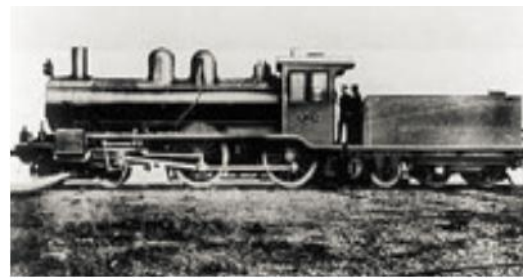
戦前の地図で調べると、船着場に面した住宅地のようなでした。

OBON2015 のボランティアは現地を歩いて調査しました。調査員は古い資料を調べました。しかし、持ち主を探し出す決め手を見つけることは出来ませんでした。



「田村機関車製作所」を第二の手がかりとして、大規模な調査が行われました。

鉄道博物館、交通資料館を始め、重工業に関する資料の中から、この会社の所在地を突き止めようと試みました。数ヶ月に及ぶ調査にも関わらず、何もこの会社に関する事は見つかりませんでした。調査は行き詰ってしまいました。



調査を始めて、ほぼ18ヶ月後、ようやく遺族が判明しました。92歳の弟さんによると、田村機関車製作所とは、鉄道模型を作っていた会社だということです。日章旗に書かれていた住所は謎のままですが、鉄道模型と何か関連があるのかもしれない。

## 寄付のお願い・連絡先

当団体は、皆様からの寄付により活動しています。

宛先

アメリカ在住の方 (501(C)3 を通じた税金控除の対象となります)

**AVA/OBON Society**  
**P.O. Box 282**  
**Astoria, Oregon 97103**

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

記号：14450 番号：16577781  
名前：OBON ニセンジュウゴ

<他金融機関からの振込>

振込先銀行名：ゆうちょ銀行  
店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448  
口座番号：1657778  
口座名：OBON ニセンジュウゴ

（「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBON ソサエティの前身名です）

皆様から頂いた寄付金により、より多くの遺品を返還することが可能になります。

日章旗をお持ちの方、また、所有されている方をご存知の場合は、当団体までご連絡ください。日章旗・その返還方法に関して、ご質問があれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。我々は日章旗の返還に、使命と情熱をもって、取り組んでまいります。



**OBON Society**

P.O. Box 282  
Astoria, Oregon 97103

[contact@OBON2015.com](mailto:contact@OBON2015.com)